

3 くくらべる力

対比関係を整える③

①(1)

月 日

評価

A B C

解説は142ページ

①(2)①

月 日

評価

A B C

解説は142ページ

①(2)②

月 日

評価

A B C

解説は142ページ

① 次の(1)～(2)の文章は、対比関係が乱れています。それぞれの〈修正方法〉に従って、文章全体を書き直しなさい。

(1) 口が笑っているでも目が笑っていないと、それは本心からの笑顔とは言えない。
一方、目が笑っていれば、それは作り笑いとは言えない。
いわば、目は心の窓なのである。

〈修正方法〉 2文目を1文目に合わせて変える。

●ポイント●

●(1) 目のプラス面を伝えようとしているのですが、2文目の述語(「B」に当たる部分)が「言えない」となっており、マイナスの印象を与えてしまっているため、意味が伝わりづらくなっています。「言えない」を「言える」に変えるためにどうすればいいか、考えます。

(2) 制服は、自分らしさをだすにくい服装であり、楽しめない。しかし、私服は、毎日同じ服装をするわけにはいかなかったため、大変だ。

〈修正方法①〉 2文目を1文目に合わせて変える。

〈修正方法②〉 1文目を2文目に合わせて変える。

●ポイント●

●(2) 「1なため」の部分を抜き、「AはAである」「IはBである」だけでチェックします。
すると、「制服は楽しめない。しかし、私服は大変だ」となり、主張のあいまいな文章になっていることに気づきます。
どちらかをプラス、どちらかをマイナスにすることで、主張のはっきりした文章になります。
もちろん、制服と私服、両方のデメリットを伝えたいのであれば、それも主張だと言えますが、その場合は「しかし」よりも、「一方で」などを使うほうがよいのです。